

平成二十九年十二月遠野市議定会定例会

遠野市長所信表明演述

平成二十九年十一月二十八日

遠

野

市

一 はじめに

本日ここに、平成二十九年十二月遠野市議会定例会が開会されるに当たり、改めて就任のごあいさつを申し上げますとともに、今後の市政運営の基本的な方向につきまして、所信の一端を申し述べます。

私は、去る十月十五日執行の市長選挙におきまして、市民の皆さまの力強いご支援、ご支持を賜り、四期目の遠野市政の重責を担わせていただくこととなりました。

この責任の重さに、改めて身の引き締まる思いであります。

今回は、新遠野市が誕生し、初の選挙戦となり、私自身、十五年ぶりの選挙戦となりました。

選挙中に市内をくまなく回り、現場には、地域課題が山積していることを改めて痛感いたしました。これまでの十五年間で分かったつもりでありましたが、正直、そうではない部分もあることを改めて感じたところです。

なお一層、きめ細かい心配りを行いながら、市民の皆様にお示した約束の実現に向け、「全力投球」「一所懸命」、そして「誠心誠意」、遠野スタイルによるまちづくりに取り組んでまいる決意であります。

引き続き、議員各位をはじめ、市民の皆様の特段のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

二 前期四年を振り返る

(本庁舎完成)

この四年間を振り返りますと、先ずもって感慨深いのは、この市役所

本庁舎の完成であります。正直、市の財政事情から考えれば、本庁舎の建設は、無理だろうと考えておりました。

しかし、東日本大震災に際し、二万八千人の市民が一丸となり、被災地の命と向き合ったという後方支援活動の取組が、国からの財政支援につながるなど、この本庁舎完成に大きく寄与したことを、私たちは忘れてはならないと思っております。

（希望郷いわて国体）

二つ目は、昭和四十五年の岩手国体以来、四十六年ぶりの開催となった、希望郷いわて国体であります。

市民総参加でのおもてなしや、小中学生による全試合での全校応援などに取り組んでいただきました。来場者数は延べ約一万六千人を超え、全国から訪れた選手団をはじめ、多くの方々から感謝の言葉をいただきました。

そして、この国体を通して、サッカーのまち遠野を全国に発信することができました。

今後は、この国体の成果を、スポーツ振興や交流人口の拡大につなげてまいります。

（東北横断自動車道）

三つ目は、復興支援道路である東北横断自動車道釜石・秋田線の遠野インター開通であります。

当日は、安倍内閣総理大臣をはじめ、多くの関係者、近隣市町村長の皆さまに多数ご参加いただき、意義深い開通式典となりました。

平成三十年度の全線開通が間近となる中、官民一体となって、高速インフラ整備に対応してまいります。

（台風十号災害）

最後に、昨年八月の台風十号被害であります。

記録的な大雨となり、孤立集落が発生する中、幸いにも人命にかかわる大きな被害がなかったのは、消防団をはじめとする市民一丸となった日頃の取組の賜物と安堵したところでした。

一日も早い復旧、そして安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。

三 基本姿勢

さて、市政運営にあたりまして、私は、「公平・公正・公開」を基本スタンスとし、「現場主義」を貫き、「知恵と工夫」、そして「汗」にこだわり、「意識の壁・組織の壁」、そして「制度の壁」に挑み、連携と交流のネットワークを大事にしていまいります。

そして、市民の皆さまへの信頼に応えるため、「スピード・タイミング・バランス・ネットワーク」を常に意識し、行動し発信し続けてまいります。

四 待ったなしの五課題に直ちに挑戦し展望を見出す

次に、私が、市民の皆さまにお約束した、五つの緊急優先課題の取組について申し上げます。

一つ目は、産業振興と活性化、雇用の確保、移住・定住、交流人口の拡大についてです。

平成三十年度には、東北横断自動車道釜石・秋田線の全線が開通し、国道三百四十号においても、立丸峠工区工事が完了し、開通する見込み

です。

これら交通基盤の整備に併せ、本市への工業団地に対する企業の進出意欲が高まって来ていることから、遠野東工業団地の整備を進めてまいります。

さらには、全国モデル道の駅である遠野風の丘の機能充実に取り組みます。駐車場の拡張や、防災機能の充実など、引き続き、国や県と協議しながら検討を進めてまいります。

本市の農業は、地域を支える基幹産業となっておりますが、高齢化の進展、担い手の減少、有害鳥獣の被害が深刻化する中、第二次遠野市農林水産振興ビジョン（タフ・ビジョンロ）に掲げる「七つの目指すべき姿」の実現、地域資源を活用した六次産業、地産地消の推進に取り組んでまいります。

移住・定住、交流人口の拡大においては、「で・くらす遠野」の活動により遠野ファンの拡大を図るとともに、「遠野のもの・こころ・海外交流推進委員会」を中心に、台湾や、今年、姉妹都市を締結したアメリカ・チャタヌーガ市などとの交流を通し、さらなる交流人口の拡大を目指してまいります。

また、平成三十一年のラグビーワールドカップ大会や、平成三十二年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた、外国人観光客の受入態勢の充実を図ってまいります。

二つ目は、少子化対策と子育て支援の強化についてです。

健康福祉の里を拠点に、社会福祉協議会、医師会、歯科医師会などと連携し、安心・安全な社会を目指してまいります。

遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」は、今年で開設十周年を迎え、過日、多くの関係者の参加のもと、記念式典とフォーラムを開催いたしました。市内外の関係者の皆さまに、遠野市からオール岩手で取り組む周産期医療の提言等をアピールしたところです。

附馬牛保育園・児童館も、平成二十九年度の完成に向け、整備を進めております。

引き続き、子育て支援や教育環境を充実させ、若年世代の価値観を理解した上で、魅力ある遠野の里をつくってまいります。

三つ目は、まちなか再生プロジェクトの推進についてです。

今年完成した市役所本庁舎とJR遠野駅を中心に、さらには、宮守総合支所とmm1を中心としたまちづくりを進めてまいります。

ローカルベンチャー事業では、現在、十四名の隊員が、起業、業興しに向けた活動を展開しており、引き続き、これらの活動を支援してまいります。

宮守町では、今年九月に、「遠野・西の玄関口みやもり検討会」が立ち上がりました。自治会、地元商工会等と連携し、さらなる宮守町の活力、賑わい創出に向けて取り組んでまいります。

四つ目は、地域コミュニティーの再構築についてです。

人口減少、高齢化が進む中、市内十一地区に配置した地区センターを小さな拠点として、持続可能なコミュニティーの育成に取り組みます。

現在、各地区で進めている地区まちづくり計画は、三地区で策定が完了し、平成二十九年度には、さらに五地区でも計画が策定される見込みです。

この計画に基づき、地域が主体となった取組ができるよう、一括交付金による財政支援等を強化してまいります。

なお、鱒沢地区においては、鱒沢地区センター整備検討委員会を組織していただき、平成三十一年度のオープンに向け、検討を進めているところです。

五つ目は、人づくり、健康づくり、地域づくりについてです。

現在、教育に関して、重点的に講ずべき施策の推進に当たっては、市長と教育委員会で組織する「総合教育会議」を開催し、協議しているところです。

引き続き、情報を共有しながら、特に、次代を担う子どもたちが自らの力で未来を切り拓く、基礎学力の向上に取り組んでまいります。

さらに、県立高校の再編問題においては、今月二十四日に、二校存続に向けた要望書を、県議会議長に届けてまいりました。

高校再編を考える市民会議の皆さまを中心とした署名活動に寄せられた、一万人を超える市民の皆さまの熱い思いを伝えてまいりました。地域の将来を担う高校生の育成に向け、引き続き、中高連携による支援策を講じてまいります。

また、健康増進においては、ICTを活用した健幸ポイント事業などにより、健康寿命の延伸、生活習慣病の予防による健康増進を推進し、いつまでも元気に暮らすことができる社会の実現に取り組みます。

五 現在進行形の事業と計画の着実な推進

これまで、市民の皆さまとしっかりとタッグを組みながら、遠野スタ

イルといった仕組みの中で、市政課題に取り組んでまいりました。

第一次総合計画後期基本計画では、五年間の取組として、計画登載事業百六十四事業中、百六十事業に着手することができました。

また、平成二十八年度を初年度とする第二次総合計画の、平成二十八年度まちづくり指標においては、百三十指標中、百八指標、約八十三％の目標を概ね達成することができました。

なお、四年前に掲げた「十・とおの約束」においては、六十四項目中、五十九項目を達成、または着手することができました。

引き続き、策定した計画の着実な実行に向け、取り組んでまいります。

六 むすび

人口減少、少子・高齢化、首都圏への一極集中が進む中、本市では、平成十七年の市村合併時と比較し、十年間で約一割、約三千三百人の人口が減少しました。

このことに大きな危機感を感じ、三期目の平成二十七年に「産業振興・雇用確保」「少子化対策・子育て支援」を優先方針に掲げ、第二次総合計画、遠野スタイル創造・発展総合戦略、第三次健全財政五カ年計画を策定したところです。

また、来年四月の組織再編を見据え、現在の十二部を八部に編成し、五十四課室等を四十二課室等に編成したいと考えております。

組織再編に当たっては、「二つの共通優先方針に対応」「スリム化」「シンプル化・分かりやすさ」を基本方針に掲げて取り組めます。

これらを組織横断型で、きめ細かく推進していくため、四期目のスタートとともに、部長級職員らで構成する遠野スタイル総合力推進本部、そして、中堅職員による遠野みらい創造デザイン推進チームを立ち上げ、この計画を着実に実行する体制を整えたところです。

市政運営の基本姿勢は、

第二次遠野市総合計画の着実な推進

遠野スタイル創造・発展総合戦略による果敢な挑戦

第三次遠野市健全財政五カ年計画による堅実な運営 であります。

市職員、関係団体、そして市民の皆さまの力を結集し、オール遠野で市政課題に立ち向かい、遠野の総合力を発揮できる新たなステージをしっかりと創りたいと考えております。

そのためにも、まち・ひと・しごと創生法の基本理念を生かした、産業振興のための市条例を制定したいと考えております。その中で、産・学・官・金・労・言の役割を明確にし、遠野の総合力を結集し、産業振興・雇用確保に取り組む考えであります。

この他にも、第三セクターの経営改善も緊急課題であることから、引き続き、民間のノウハウを活用して、思い切った見直しを進めてまいります。

しっかりとした計画を持ち、着実に事業を推進していくためには、丁寧な議論を重ね合意形成を図っていく必要があります。このような手順を踏むことに、今まで以上のこだわりを持って取り組んでまいります。

また、これまで多くの市民の皆さまからのご支援、ご理解のもと、東北地域のみならず、全国で私たちの遠野市を発信する立場と機会をいただいております。

この経験をフルに活用し、さらなる遠野の発展のために行動してまいります。

終わりに、議員各位をはじめ、市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。